

延命寺は、南北朝時代の延文元年(1356)に、曹洞宗の興学寺として創建されました。慶長年間(1596~1614)、当時の住職宗賢法師が、喜多院の天海僧正と宗論を行い、それを受けて天台宗に改宗するとともに、延命寺の名も授けられたといわれます。

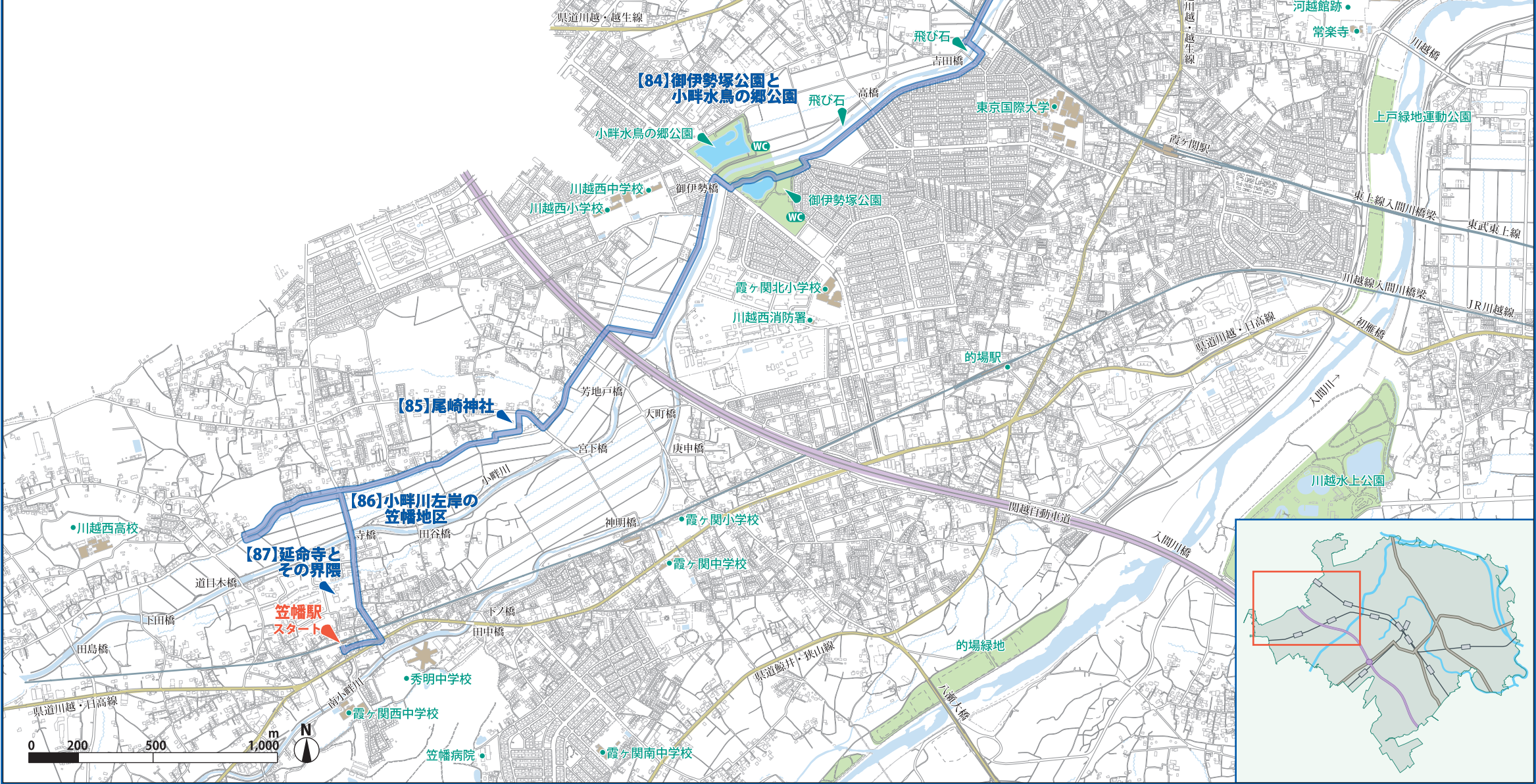
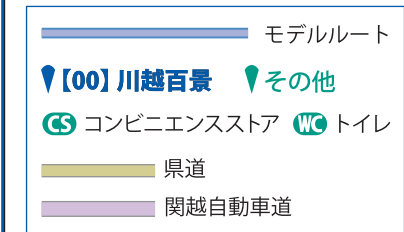
【86】小畔川左岸の笠幡地区

小畔川左岸の台地の縁
辺部に鎮座する尾崎神社
は、創建は明らかではあり
ませんが、日本武尊東征
の折、見晴らしのよい所
だったので尾崎の宮と称
え、二神を祀ったのが始
まりと伝わります。100m
を超える長い参道は、スギ
などが生い茂り森閑とし
ています。

芳地戸のふせぎは、春
の彼岸の中日に行ってい
る悪霊払いの儀式です。
尾崎神社で木製の柵に櫛
を建てただけの素朴な神
輿をつくり、地区を巡りながら、辻々に札を立てていく古風な形式を残
しています。(市指定文化財)

小畔川を挟み、土地
画整理事業により整備さ
れた公園です。御伊勢塚
公園のある伊勢原地区
は、かつては火工品工場
でしたが、その下には古

笠幡駅→【87】→【86】→【85】→【84】→
【94】→【90】→鶴ヶ島駅



墳時代の集落が眠っています。伊勢信仰に由来する御伊勢塚や噴水のある池があります。

小畔水鳥の郷公園は、池の中央に浮島を設けるなど野鳥が棲みやすいように工夫がなされ、季節ごとに多様な鳥たちがくつろぐ姿が見られます。

両公園を結ぶおいせ橋通りは、見事な桜並木のほか、周辺にはケヤキやハナミズキの並木もあり、良好な住宅地の景観を形成しています。

【94】小堤の八幡神社とふるさとの森

県道川越坂戸毛呂山線を、川越から坂戸方面に向かい小畔川に架かる八幡橋を渡る時、右手にこんもりとした八幡神社の森が見えてきます。小畔川が作った段丘に位置し、参道のある斜面は、鬱蒼とした森となっています。麓にある鳥居の脇には、古くから湧きつづける清水があ

り、水と緑がおりなす景観が楽しめます。

八幡神社は、正治元年（1199）に奈良県山辺郡より遷座創建されたといわれ、本殿は覆屋の中に鎮座し、18世紀半ば以前の建築と推定されています。



【90】こもれびの道のある東洋大学キャンパスと鎌倉街道

東洋大学川越キャンパスは、工学部創設に合わせて昭和36年（1961）に開設されました。約28.5haという広大な敷地の2割以上が雑木林として残されています。特に、新西門からつながるこもれびの道は、

林の中の散歩道として地域の方にも親しまれています。「こもれびの森・里山支援隊」も発足し、大学と市民の協働が始まっています。一方、校舎群はコンクリートの打ち放し仕上げを基調とし、雑木林と対峙しながらも独特の調和を見せています。

キャンパスの東側にある市民の森には、直線的な鎌倉街道（鎌倉みち）が南北に走っています。

